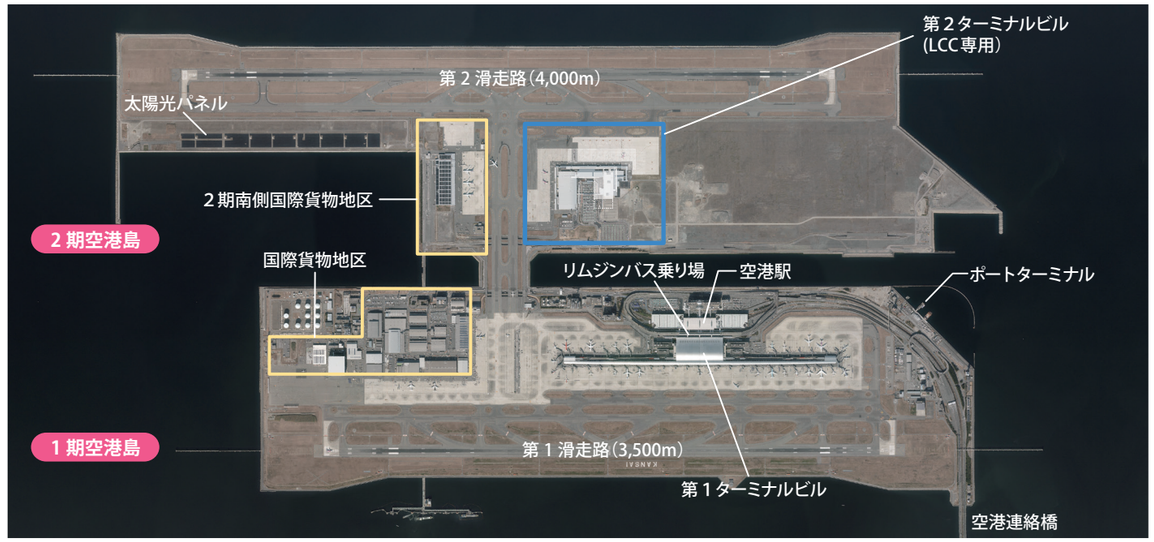
関西国際空港の施設概要



1期島

■面積：約510ha
■開港日：1994年9月4日
■主な施設
第1滑走路(3,500m×60m)、駐機場（73スポット)、
第1ターミナルビル、貨物取扱施設、空港駅等

2期島

■面積：約545ha
■供用開始日：2007年8月2日
■主な施設
第2滑走路(4,000m×60m)、駐機場（31スポット)、
第2ターミナルビル（LCC専用）
貨物取扱施設、フェデックス北太平洋地区ハブ、駐車場等

日本初のコンセッションによる複数空港運営

関西エアポート株式会社
株主：オリックス（株）　(40%)
VINCI Airports　(40%)
関西系企業等30社（20%)

着陸料・商業施設売上等の運営収入

運営権の設定（モニタリング）　KIX・ITAMI の運営事業権　運営権対価

新関西国際空港株式会社
空港法上の設置管理者、ターミナルビル・滑走路等を保有

貸付　地代

関西国際空港土地保有株式会社
関西国際空港の土地を保有

債務の確実な償還

促進協の主な取組み

国への要望活動

要望活動の様子
（国土交通省）

要望活動の様子
（出入国在留管理庁）

〈2024年度の要望項目〉

1. 2025年大阪・関西万博の開催に向けた円滑かつ快適な受入体制の整備
- グランドハンドリング、保安検査、給油などの人材確保に向けた必要な支援
- 旅客手続きの円滑化に向けたスマートレーンなどの整備に対する財政支援
- 税関・入国審査の手続き など

2. 2025年大阪•関西万博とその後の成長を見据えた関空の容量拡張等
- 新飛行経路の導入にあたり地元要請の確実な履行
- 空港近隣地域が行う観光振興等の取組みに対する必要な支援

3. 関空アクセスの強化
- なにわ筋線の整備への支援、淀川左岸線(2 期）・延伸部などの早期整備の推進

4. 関空の脱炭素化の推進
- 太陽光発電設備の増設、空港車両のEV導入などへの財政支援

関西国際空港ゲートウェイ機能強化促進事業

〈2024年度の取組実績〉

1. 万博とその後の成長に向けた利用促進
航空会社と連携した関空路線のPR事業 など

2. 関空の立地効果波及推進
関係自治体等と連携し、関空がもたらす経済的効果を地域に取り込む事業 など

3. 関空機能の維持に必要な取組
空港内事業者が行う人材確保に向けた取組への支援 など

▲旅行会社を招聘したファムトリップ

▲岬町の観光資源を活用した旅行商品

▲関空の合同企業説明会

2025年大阪・関西万博とその後の成長を見据えた関西国際空港の機能強化

■新飛行経路導入による発着容量の拡張

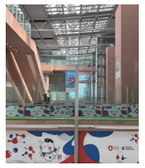
2022年9月
万博やその後の航空需要に対応するため、処理能力の引上げを決定
1時間あたり45→60回（≒年間発着容量30万回）

2025年春
容量拡張に必要な**新飛行経路導入**
大阪・関西万博開催

2030年代前半
年間発着回数30万回
実現を目指す

■第1ターミナルビル リノベーション

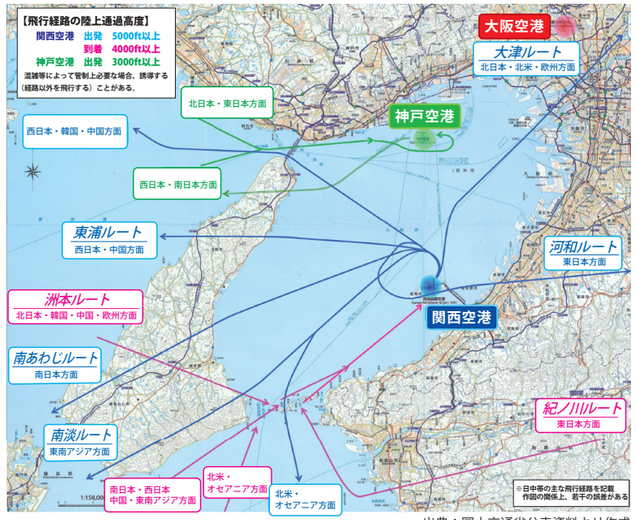
【2025年3月 グランドオープン】
- 利便性と受入能力の向上を図るため、国際線／国内線エリアの配置の見直し、保安検査場の拡張、出国手続後の商業エリアの充実などを実施
- 関西国際空港全体のターミナルキャパシティを国際線旅客1,485万人から約4,000万人（出入国合計）に拡大



入国審査場

国際線保安検査場

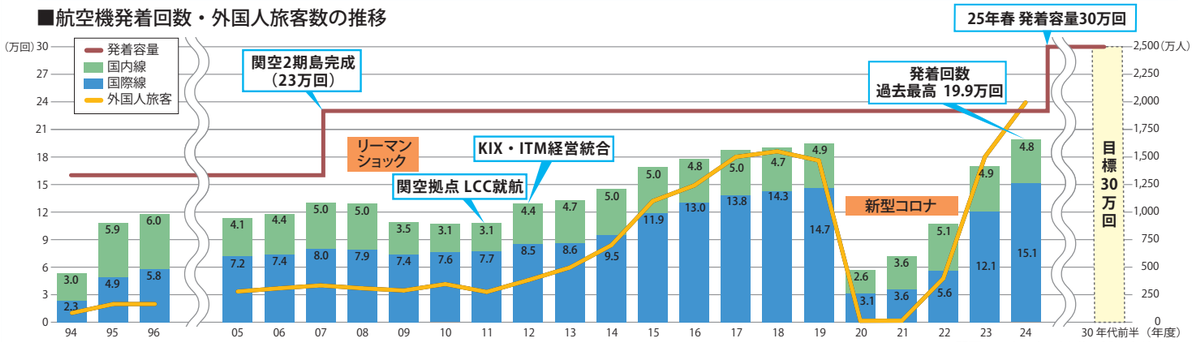
■新飛行経路（北風時）



出典：国土交通省公表資料より作成

関西国際空港の現状

■航空機発着回数・外国人旅客数の推移



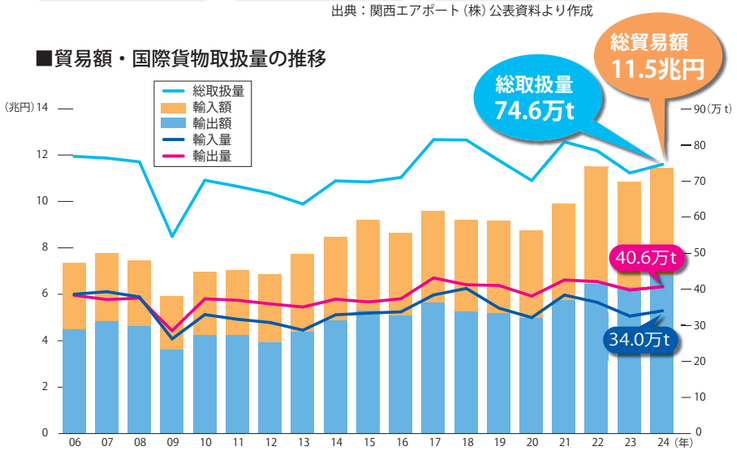
出典：関西エアポート（株）公表資料より作成

■国際旅客便・スケジュールの推移

2024年夏〈実績〉 1,274便／週 56都市
2024年冬〈実績〉 1,380便／週 59都市
2025年夏〈計画〉 1,517便／週 66都市　過去最高

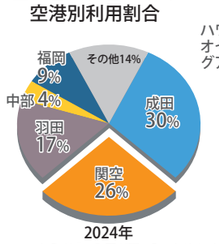
出典：関西エアポート（株）公表資料より作成

■貿易額・国際貨物取扱量の推移



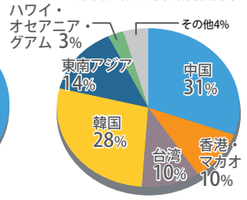
出典：関西空港税関支署公表資料より作成

■外国人入国者数の空港別利用割合



2024年
出典：法務省「出入国管理統計」より作成

■国際線旅客便発着回数方面別割合



2024年度
出典：関西エアポート（株）公表資料より作成

<2024年度国際線利用実績>
国際線旅客数：2,508万人
外国人旅客数：1,983万人
国際線発着回数：151,275回
過去最高

<2024年貿易額実績（確々報値）>
輸出総額：6兆8,114億円（対前年伸率＋8.1%）
輸入総額：4兆6,459億円（対前年伸率＋2.7%）
差引額：2兆1,655億円の輸出超過
（開港以来輸出超過を継続）